

理系学生にビジネス感覚を

小樽商大で塾 室工大生 決算書読む



企業の会計戦略などを学ぶ室蘭工大生

理系学生にビジネス感覚を身につけてもらう「ものづくり目利き塾」が小樽商大で19日に始まった。室蘭工大の4年生と修士課程の学生10人が決算書の読み方などを学んだ。

理系、文系の枠組みを越えて社会で活躍してほしいと両大が今年初めて共催した。8月には小樽商大の学生が室蘭工大で製造業の現場や技術を学んだ。

19日は小樽商大の市原啓善准教授が講義した。市原さんは利益率や原価率を通して企業の会計戦略を分析する方法を説明し「コストに対する意識を持てば、製品開発にも役立つ」と話した。学生は引き続き北海道製缶と光合金製作所の工場を見学した。最終日の20日は経営学と会計学を学ぶ予定。

室蘭工大4年の山口瑠斗りゅうとさん(21)は「普段は車の部品や設計について学んで

いる。企業の経営がどう成り立っているのか、触れることができた」と話した。

(有田麻子)